

指定避難所の防災機能設備充実へ 防災対策、農業問題で論戦：私の一般質問

12月議会の一般質問で私は、指定避難所の防災機能設備の充実、原子力防災訓練の評価、「人・農地プランから地域計画へ」移行する農政課題について質問をしました。市長は指定避難所での冷房機器などの充実を約束しました。



【ホトトギス】ユリ科の多年草です。漢字で「杜鵑草」と書きます。茎は直立したり、垂れ下がったり。葉は細長です。花期は8～10月ですが、今年は11月でも咲いていました。花は上向きで、内側には紫色の斑点があります。花言葉は「永遠にあなたのもの」「秘めた意志」。写真は11月上旬、大島区板山にて撮影しました。

【橋爪】内閣府は本年7月、「指定避難所における防災機能設備等の強化の推進について」という通知を出した。この通知に照らして当市の設備の状況はどうなっているか。

【中川市長】当市の状況を、具体的に全国平均と比較すると、非常用発電機等は全国平均63・8％に対し、市は84・7％、飲料水の確保対策は

全国平均74・8％に対し、市は97・8％、冷房機器は全国平均63・0％に対し、市は77・1％、暖房機器は全国平均74・9％に対し、市は92・4％、断水時のトイレ対策は全国平均71・7％に対し、市は97・3％であり、この5項目については、全国平均を上回っている。一方で、ガス設備は全国平均88・6％に対し、市

は61・9％、通信設備は全国平均63・1％に対し、市は19・3％、と、全国平均と比べ低くなっている状況にあるが、災害時応援協定等により、ガス設備は大型小売店等から、通信設備は電話会社やケーブルテレビ会社から支援を受けることと

している。

【橋爪】ガス設備、通信設備など全国平均を下回っているものは向上させていく、そして冷房機器のように上回っていても、避難者にとっては大変だという問題は積極的に解決してほしい。

【中川市長】冷房については、体調の悪い方、高齢者などが非常に苦労されて、もしかすると体調崩されるようなことになってくる可能性がある。私としては、素早くそういうところが充足されるように、部下に指示を出していく。

【橋爪】農業は大激動だ。国では、「人・農地プランから地域計画へ」と取り組んでいる。市長はこの政策について、上越市食料・農業・農村基本条例の観点から、どのような基本姿勢で臨むのか。

【中川市長】当市では、上越市食料・農業・農村基本条例の理念を念頭に置きながら、地域との話し合いを通じて、それぞれの地域の実態に即した計画となることを基本姿勢とし

て、取り組んでまいりたい。

【橋爪】令和五年度版の統計情報を見てショックを受けた。平成17年から令和2年までの15年間の動きが数値で示されているが、経営耕地面積が30アール以上の農業経営体数は、平成17年は8141、それが令和2年には3053だ。農業後継者については令和2年調査で、「確保していない」が540、「確保していない」は2452だ。これでは農業が絶えた上越市になりかねない。基本条例では、「国及び県に対して施策の提言を積極的に行うように努めるものとする」とある。これまでどういう働きかけをしてきたか。

【空農林水産部長】農業者が減っている原因は2つだ。1つは高齢化、もう1つは低米価だ。まず米の価格を安定させるために、お米以外の自給率の低いものに転換する制度の法制化などを要望している。

【橋爪】高齢化が主因じゃなく、戦後の農政が問題だ。外国から農畜産物を輸入して自給できなくなる。大企業べったりの農政をやって農家に犠牲を強いてきた。全国市長会は昨年、「計画策定を一律に義務付けることは、現場に大きな混乱をもたらす。地方分権改革の取組にも沿わないから反対」という意見書を出した。こういう働きかけこそ大事だ。

【橋爪】令和五年度版の統計情報を見てショックを受けた。平成17年から令和2年までの15年間の動きが数値で示されているが、経営耕地面積が30アール以上の農業経営体数は、平成17年は8141、それが令和2年には3053だ。農業後継者については令和2年調査で、「確保していない」が540、「確保していない」は2452だ。これでは農業が絶えた上越市になりかねない。基本条例では、「国及び県に対して施策の提言を積極的に行うように努めるものとする」とある。これまでどういう働きかけをしてきたか。

住民税非課税世帯に1世帯当たり7万円の給付金

上越市は13日、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、住民税非課税世帯に1世帯当たり7万円の給付金を支給するとともに、市独自の支援として、同じく住民税非課税世帯に灯油代（1世帯当たり5千円）を支給する経費を盛り込んだ一般会計補正予算を議会に提案し、市議会は審査の結果、同日、全会一致で可決しました。

対象となる世帯は約1万5600世帯。初回振り込みは今月下旬の見込みです。申込期限は来年の2月29日となっています。早めにお申し込みください。イラストは13日の厚生常任委員会における補正予算案審査の様子です。



はしづめ法一の 活動レポート

No.2138 2023.12.17
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL https://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七八五回

人を励ます力

大潟区の海岸から三百ほど陸地に入っただころに住むTさんは、柿崎区の下黒川地区の出身です。

先日、議会が早く終わったので訪ねたところ、「待っていました」と言った感じで迎え入れてくださいました。私のエッセイ集を何冊も購入してくださった方なので、私も、たまにはゆっくると話をしたいと思っていました。

居間に上がらせてもらい、お茶をご馳走になったのは何年ぶりだったでしょうか。テーブルに目を向けると、その上には詩人・画家である星野富弘さんの『花に描かせてもらおう』という十数ページの冊子が置いてありました。

「私、この人の書いた本が好きなの」と言っていて、奥の部屋から、『いのちよりも大切なもの』、『鈴の鳴る道』など七冊の本を持ってきてくださいました。

星野富弘さんについては花の絵やカレンダーを見ていましたので、心に響く詩を書き、ほんのりした絵を描く人であることは分かっていました。でも、この人の本はまだ読んでいなかったのです。それだけに、Tさんが知っておられる情報は新鮮でした。

「この人は学校の先生をやっていたんだけど、ケガをして体が不自由になんたんだわ。でも絵筆を口にくわえて絵も描けるようになったし、字も書きなるの」

そう言っていて、字を書く練習をして上達していったことを示す本の中の画像を見せてくださいました。そして、「奥さんは絵の具を混ぜる手伝いしている」とも言われました。Tさんが星野富弘さんの世界にはまっていることはすぐにわかりました。

お茶をご馳走になりながらTさんの話を聞いていて思ったのは、Tさんがなぜ星野富弘さんの作品に惹かれるようになったか

です。作品が素敵であることが理由の一つであることは言うまでもありません。ただ、それだけではないと思っています。私はTさん自身がこれまでの人生で様々な困難とぶつかり、乗り越えてきた、そのことが星野富弘さんの詩や絵の世界と重なっているに違いないと感じていたので。

何よりもびっくりしたのは、ガンや糖尿病などじつにたくさんさんの内臓の病気にかかり、骨折などのケガも繰り返し返されてきたことです。本人は女性ですが、「おれ、オトコだすけ産婦人科にかからなかっただけで、あとはみんななかった」と言われるほどののです。でも見かけは、病気やケガとは縁がないような明るい顔をされていて、ふた月ほど前まで市内の病院に入院していたことが嘘のように思えました。

星野作品がTさんに影響を与えているなと思ったのは、Tさんから花の話聞いたときでした。どんな話をしていても、少しでも花に関係することが出てくると花の魅力へと話題が移っていくのです。

Tさんの実家周辺には里山が広がっていて、ワラビやゼンマイなどの山菜の宝庫となっています。でも、山菜は一本も採らないそうです。それでいながら、里山に咲く雪椿のことにになると目の色が変わるといいます。面白いものですね。

この日、私は家に帰ってすぐに星野富弘さんの冊子、『花に描かせてもらおう』を読みました。読みはじめてからじきに素敵なき言葉と出会いました。「美しいものを美しいと感じられる心さえ大丈夫なら、自分にも絵が描ける、文章だって書ける」

読み終わって分かったのですが、星野富弘さんの本や作品はすべて人を励ます力を持っているのです。Tさんの明るさはここから来ているような気がしました。今度、会ったら聞いてみようと思います。

日時計をめぐる話にワクワク

高田小町で10日、日時計についての講演会がありました。講師は清里区の星のふるさと館館長を長く務められた細谷一(ほそや・まこと)さん。講演の中で細谷さんは、日時計の仕組み、魅力、上越地方での設置状況などについて語っていただきました。日時計については5000年以上の歴史があり、「最も古い科学」「一本の棒の科学」ということです。わずか一本の棒の影から、東西南北の決定、季節の特定、地球の大きさの測定ができるという解説にはすごいと思いました。上越地方では現在、日時計を25面確認できるそうです。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月6日(水)	12月13日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.070	0.063
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.063
高士分遣所	0.047	0.050

小さな小さな保健室



保健師の杉田みゆきさん(柿崎区)が9日、地域の人たちの健康を守ろうと、新しいサービスをスタートさせました。「小さな小さな保健室」です。この日は、「道の駅よしかわ杜氏の郷」の一角で保健室を開設、私は血圧等の測定をしてもらった後、「小さな声も拾って聞こえやすくする」という器具を見せていただきました。杉田さんとは、「聞こえ」の障害を取り除くことがいかに大切かを話し合いました。